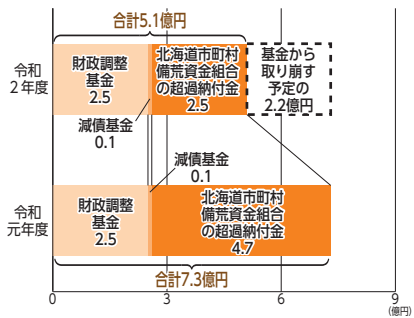


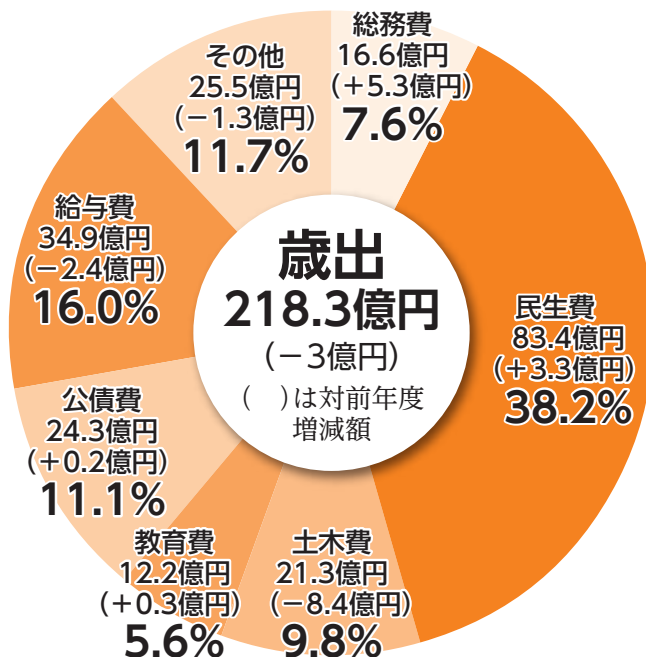
令和2年度の一般会計予算では 2億2,000万円の基金（貯金） を取り崩して予算を編成

218億2,500万円の支出に対して、収入は216億500万円の見込みとなったため、2億2,000万円の財源不足が生じたことから、基金を取り崩して対応し、予算を編成しました。

皆さんの家庭と同じく、市の財政も一定の蓄えが必要ですので、できるだけ基金残高を確保し、将来にわたって安定的な財政運営が図られるよう、引き続き、収入の増加や支出の節約に努めていきます。



一般会計の歳出



令和元年度の一般会計当初予算

221億2,000万円

令和2年度の一般会計当初予算

218億2,500万円

令和元年度から 2億9,500万円の 減額（一般会計）

民間企業と同様に、独立採算を原則として事業を行うのが「公営企業会計」です。市には、水道事業、下水道事業、簡易水道事業の3つの会計があり、令和2年度の公営企業会計当初予算の合計は52億7千80万円となりました。

公営企業会計の概要

令和2年度の特別会計当初予算の合計は104億2千880万円となりました。

国民健康保険や介護保険など、使途が決まった収入（保険料や使用料など）で特定の事業を行うのが「特別会計」で、市には、国民健康保険、学校給食事業、介護保険、カルルス温泉スキー場事業、後期高齢者医療の5つの特別会計があります。

特別会計の概要

そのほか、「総務費」は、市制施行50周年記念に関する事業費やふるさと納税に関する経費などにより、5・3億円の増加となりました。

また、「土木費」は、千代の台団地の建替事業費や道道上登別室蘭線東通の改良に係る受託事業費などにより、8・4億円の減少となりました。

総務費

市の全般的な管理などに使うお金

民生費

高齢者や子どもなどの福祉に使うお金

土木費

道路や市営住宅などの整備や維持管理に使うお金

教育費

児童・生徒の教育、学校の整備や運営などに使うお金

公債費

借金を返済するためのお金

給与費

職員に給料や手当などを支払うためのお金